

「異分野融合セミナー」を開催

2018年7月12日

7月12日（木）、金沢大学がん進展制御研究所 4F 会議室において、東京大学大学院理学系研究科 特任助教 寺坂尚紘 先生をお招きして、異分野融合セミナーを開催しました。

セミナーでは、「人工ヌクレオカプシドの実験室内進化 Laboratory Evolution of Synthetic Nucleocapsids」という演題で講演いただきました。ウイルスの起源について、複数の仮説が提案されていますが、講演では、RNA を内包したタンパク質オリゴマー微粒子が段階的に形成・高度化されるプロセスが実験的に再現されることが紹介されました。異分野融合研究の面白さが感じられ、大変有意義なセミナーとなりました。

セミナーには、研究所内外の教職員、大学院生等約22名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



金沢大学がん進展制御研究所
金沢大学ナノ生命科学研究所
金沢大学新学術創成研究機構

異分野融合セミナー

寺坂尚紘先生

東京大学大学院理学系研究科
特任助教

人工ヌクレオカプシドの 実験室内進化

Laboratory Evolution of Synthetic Nucleocapsids

2018年7月12日（木） 17:00 - 18:00

がん進展制御研究所 4階会議室

ウイルス起源について様々な仮説が提唱されていますが、細胞内のタンパク質が核酸を取り込んで自己集合したものが起源であるという仮説があります。この仮説を実験的に証明するため、非ウイルスタンパク質を実験室内進化させ、自身のmRNAを選択的に内包することに成功しました。また、この人工ヌクレオカプシドを用いた、ウイルスを代替する技術応用研究についても触れたいと思います。

司会: 松本邦夫（ナノ生命科学研究所・がん進展制御研究所）